



介護の仕事の本質は「こころ」

ご高齢となって独居が難しくなり、長年住み慣れたご自宅から老人ホームに移って第二の人生を送る。それをお支えする介護の事業に携わって8年目になりますが、日々の仕事のなかで感じているのは、「終の棲家」となる高齢者住宅に一番大切なものは、建物の豪華さや立地等のハード面ではなく、そこでどう毎日の生活を送るかというソフト面の質だということです。

医療法人健育会グループの老人ホームは、毎年、ダイヤモンド社の『老人ホームランキング』で上位に載せていただいておりますが、客観的な定量評価だけではなく本当に評価してほしいのは、実は「こころ」で測る生活の質だと思っています。

たとえば、私たちの老人ホームでは、「グループ病院との連携による安心の医療体制」も、「源泉掛け流し三昧、伊豆の豊かな自然を楽しむ」(ライフケアガーデン熱川)ことも、ある意味当たり前です。

私たちの介護理念である、「ご入居者に輝きの1日を提供して、心豊かな人生を支援する」ために、たんなる衣・食・住だけではなく、「私たちは、生活のなかに退屈やあきらめをつくりません」「毎日の食事が美味しい、とことんこだわるプロの技」「職員都合の押し付けや、待って、ダメ、という言葉のない文化」「最期までその人らしく過ごす、尊厳と優しさに包まれた看取り」等、生活の具体的な中身にとことんこだわり、実践する老人ホームでありたいと心掛けています。

老人ホームの生活では、新たに始めることや、いつまでという期限のある用事が少なく、毎日同じことの繰り返しになりがちです。そこで、私たちは、「生活のなかにリズムを取り込み、さまざまなイベントを織り込んで、あっという間に過ぎる1日を作りたい。家族と過ごした頃と同じように、一年一年の積み重ねのなかで折々の季節を感じる思い出をつくりたい」「集団生活だから」「介護してもらってから」、また、老いることの衰えを仕方ないと諦めてしまうことのないよう、つねにご入居者の悩みや希望を汲み取り、夢を叶

えるお手伝いがしたい。笑顔をたくさんつくりたい」と考えています。

「ちょっと待って」と言う前に、ご入居者の「やりたい」「行きたい」という気持ちを受け止めて、どうすれば希望を叶えられるかと考えます。

そのために、人員体制や教育にもこだわっています。よく、「常勤比率が高いから、人件費が大変でしょう」と言われますが、職員がご入居者を理解し、24時間こころに寄り添うためには、実力ある経験者を厳選し、極力、常勤職員として雇用することが必要です。

私たちのホームは、「父や夫がよくしていただいたから、母や私もお願ひしたい」と、ご家族や知人が順繰りにご利用されることがよくあります。こういったリピート率の高さが、私たちの取り組みに対する評価だと、ありがたく受け止めています。

今、高齢者住宅業界は、新規事業者の進出や大再編のうねりのなかで規模の拡大が進んでいます。2年後には全国の介護療養型の病床が院内施設に転換する動きも出てくると思われそうですが、介護の仕事の本質＝「こころ」の部分は、一人ひとりのご入居者の要望や悩みに向かい合う、マニュアルのない手づくりの作業です。いたずらに規模の拡大を図ることなく、一つひとつの老人ホームの質を磨き上げて、「ライフケアガーデンに住みたい」と望まれる施設でありたいと考えています。

山田 寿朗

やまだ・としろう

● PROFILE

医療法人健育会グループ・株式会社ヘルスケアシステムズ代表取締役副社長。早稲田大学法学部卒業後、三菱銀行(当時)入行。調査部、システム企画、融資部などの本部調査役や国内支店長を歴任し、平成21年2月、(株)ヘルスケアシステムズ入社。病院や老人ホーム等のM&Aや現場管理の経験も豊富。

